

2004年4月5日発行

あんふぁんて

逐次刊行物

'16.4.7

No.295

国立女性教育会館
女性教育情報センター

2004年4・5月 合併号

Enfanter ● No.295

あんふぁんて

Enfanterとはフランス語で

①子を産む ②(計画などを)考え出す ③(作品などを)創り出す.の意

詩
イラスト

三光
吉田



「ランドセルを背負う前に」
お友だちと遊んで
ケンカして
仲直りして
先生といろんなお話して
お話を聞いて
一杯泣いて
一杯笑って
まだ「文字」にとらわれない
耳と目と心で
たっぷり「コドモノジカン」を
楽しんでね



特集

幼稚園と保育園 いっしょになるの?

P2

・あんふぁんてからあんふぁんてへ

P10

・ひとことコーナー

P11

・おかしいぞ? あぶないぞ! 日本

P12

・図書コーナー

P13

・30周年委員会報告

P14

・情報コーナー

P15

あなたも “あんふぁんて” しませんか？

「あんふぁんて」は、子どもがいてもイキイキ暮らしたい、
子どもも自分も大事にしたい、そんな思いの人たちが始めた会。
1975年の設立以来、全国の会員が思い思いの活動をしています。

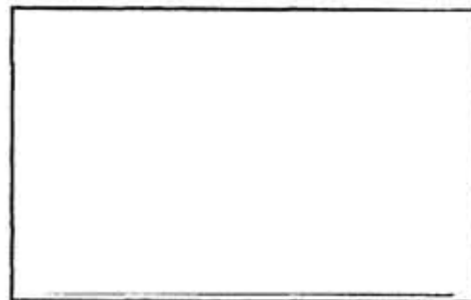
自分たち手作りの会報では、育児ストレスやママ友達との人間関係、
仕事や年金のこと、夫や親との関係、幼稚園・保育園や学校のこと、
お産や更年期など身体に関することなど、幅広いテーマを扱います。

2004年4・5月合併号の特集は、

「幼稚園 と 保育園 いっしょになるの？」

幼・保一元化の動きのある中、子どもを幼稚園に通わせる親も、保育園に通わせる親も、お互いに相手の園のことをよく知らずに、勝手な思い込みをしているのではありませんか？ それぞれの教育内容や長所・短所を知り、時代のニーズを考慮しながら、子どもたちが安心して過ごせる場、健やかに育てる場としての幼稚園・保育園を考えてみましょう。

その他、あんふぁんての30周年を前に考えることや、今の日本の「平和」の裏側など、気になる記事や投稿があなたの興味を引くことでしょう。
会報は会員一人一人をつないでいます。興味のある方は下記まで連絡ください。



近い地域の会員連絡先

【

】



今何が大変かという、二人の子を別々の場所へ送り迎えすること。保育園入園の競争が緩和され、幼稚園の保育時間が伸びて内容が充実するといふ「いいとこ取り」の一元化なら大歓迎だ。そうすれば、パートに出ようとか、資格を取得の勉強しようなどと考える女性が、一歩を踏み出しやすくなると思う。



ただ、職員の方々が、私の再就職にとっても理解を示して下さっているのに、システムも大事だが、その視線の温かさに感謝している。それから幼稚園に入るとき、早期教育に力を入れるのだったら、うちの子には負担かも、という心配があった。

実際は、隔週に一度絵の先生と、週一度体操の先生が来るのだが、それぞれ小一時間程度面倒を見てくださり、指導方法も強制的でないで、子どもは楽しみにしている。

また、幼稚園の先生は女性ばかりだが、体操の先生は若い頃の西城秀樹似のかっこいい男性なので、新鮮でうれしいようだ（私がでなく、子どもがです）。

それになんだかんだいっても、三歳から六歳の子どもたちだから、個人差はあるが、自分の身の回りのことがちゃんとできるわけではない。おもしろいもすれば、泣いて困らす子もいるし、集中力もない。やっぱり大部分は「生活面」の面倒を見てもらっているという感じがする。特に年少のうちは。

幼稚園に通わせている立場から

堺市

三人の子どもたち（中一、年長、年少）は、下の子二人が現在、私立幼稚園に通っており、上の子どもも同じ園を卒業しました。

全く個人的な見解と、少々偏見まじりで書かせて頂きますが、少し前まで、私は、保育園は単に子どもを預かる所、幼稚園は、子どもにいろんなことを教えるところ、という印象を持っていました。これはきつと、保育園が厚生労働省の管轄で、幼稚園が文部科学省の管轄というふうに分けられているからではないかと思えます。保育園は両親が共働きなど、家庭での保育が困難な状況の人が利用する場であり、そうでなければ、幼稚園というように分けられることに何の疑問も抵抗も感じていませんでした。だから、仕事をしながら、専業主婦の私が、保育園に比べて保育時間の短い幼稚園を選んだのは、ごく自然であつたと思います。

我が家は一人目と二人目の年齢差が大きいので同じ幼稚園に通わせても、又、周囲の幼稚園（全て私立ばかり）の様子を見ても、一人目が通っていた七、八年前と比べると、随分変わってきているのを感じます。当時は、九時〜二時までの定時の保育時間で週四日お弁当だったウチの園でも、今では、早朝から夕方遅くまでの延長保育を導入し、又お弁当についても希望すれば業者の注文弁当を利用できるようになったので、以前にくらべると親の負担がかなり軽減されています。他の幼稚園でも以前はほとんど見られなかった四年保育が今では大半の幼稚園で導入されており、未就園児向けの教室や園庭開放もより一層活発に行われ



ています。保育園に入らず待機児があふれる一方で、私立幼稚園では定員割れはおろか、閉園に追い込まれるところも少なくなく、幼稚園側はこども園児獲得に必死なのです。子育て支援事業の一環として、と説明されるこれらの変化に生き残り、また、保育園も昔のようにただ預かってでなく、英語や習字を教えたり、全国大会をめざすような鼓笛隊の指導をしたり、と親のニーズに合わせて特色ある保育をするところもあります。私の住む地域周辺を見ただけでも幼稚園と保育園を分けることに垣根がなくなりつつあるようです。幼稚園と保育園を分けることについて、もう昔ほどの意味はなさそうに思うのですが、

園児には九九より砂遊びを

越谷市

幼保特集のアンケートにあった「保育園でも幼稚園並みにもっと「お勉強」的な事を教えて欲しい」という意見についてですが、確かにそういう声を最近よく聞きます。最近の幼稚園では、平仮名の読み書きどころか、漢字や九九まで教えるところがあるのか？！保育園児の親としては、少々焦るのも無理はないと思います。

私の知る限りでは、就学前に幼稚園で文字・九九を教えた子と、小学生になって初めて文字・九九を習った子の、その後の学力の差というのは、あまり無いようです。保育園育ちで小学生になって初めて習う子の方が文字や九九の学習が新鮮に思えて、かえって習得が早いということもあるようです。いずれにしても、一年生の夏休みぐらいには、追い付くようです。

私は小学生・高校生に英語を教えています。生徒達を見ていると幼稚園で早くから「お勉強」した子の方が、その後の出来が良いという事は特にないようです。

とは言っても、何も全面的に幼稚園での勉強的要素を否定しているわけではありませんが、例えば音声面では、就学前の子どもの方が耳が良いという事はあります。絶対音感や英語などの発音：等がそれに当たります。だからと言って、こちらを奨励しているわけでもありません。要は一人一人の子供には個人差もあり、興味をもつ時期も違うので、その時その時で、その子供の成長過程に合わせて興味を感じていることをやらせてあげられる環境を与えられれば、と思うのです。

四、五才の子供は概して外遊びが大好きなのに、

幼稚園と保育園に通わせて

武蔵野市

私は現在、四歳の長女を幼稚園に、二歳の次男を認可外保育園に預けている。幼、保のどちらかを選んだというより、私が仕事をしていたなかった時期に入園の娘は必然的に幼稚園になり、仕事を始めたので次男は保育園になった。

どちらの園も小規模で、子どもの発達の様子や性格をよく見てくださっていて、無理のない範囲でよく遊ばせてくれていると思う。

ただ、幼稚園の基本的保育時間は九時（冬は九時半）から二時なので、保育時間の長い保育園の方が「生活」しているという印象が強い。例えば、保育園は昼寝やおやつ、の時間が確保され、その内容がかなり充実している。幼稚園では、週二回の給食は仕出しで、栄養的にどうかと思うこともあるし、四時までの預かり保育では、おやつは「ヤクルト」一本。そのあたり、家庭で補う必要性を感じるが、その程度は可能なので、仕方ない。

娘の園は、降園後二時間までの預かり保育に加え、今年度から早朝預かりのシステムができ、私はこのおかげで今の仕事（非常勤）ができています。ところが、この「預かり」は「お母さんのお仕事の支援が目的ではありません」と園長先生が明言するように、保育園とは性質が違ふ。

先生方にとってはプラスαの時間なのかと思うので、園の事情も考えると、預かり保育の内容にあまり文句は言えない。しかも料金は一時間に付き二百円。より充実させるためにもっと高額になってもいいと思うが、園の考えもある。やはり「幼稚園」の性質上、家庭で過ごす時間が長い子どもが中心になるのだから。

その時間を制約して全員一斉に机に向かわせて文字・九九を教えるくらいなら、飽きるまで砂遊びをさせてあげた方が、その子の感性は磨かれると思います。就学前に生活の中での「遊び」の楽しさを覚えた子供は、小学生になっても自分でも生活を楽しむ工夫が上手な子が多いですね。

なんだか「幼保一元化」の話題から随分と逸れてしまいましたが、私としては、この先「幼保一元化」が現実になるとしても、保育園のいい所である「お勉強より、生活の中での遊びを楽しむ」という部分は壊さないで欲しいなと思います。

また、これから幼保を選ぼうとしている保護者に一言、私は諸事情から長男は幼稚園、次男は保育園だったのですが、両方を見てきましたが、どちらもそれぞれの良い所があります。親にとっても子供にとっても向き不向きがあります。ただ、保育園に行ったら小学生になつてから、勉強に慣れていけないのではないかと心配している人がいるのなら、「そんな事はないよ。就学前はたっぷり遊ばせて大丈夫よ！」と言っつけ加えたいと思います。



保育園から幼稚園に通う二重保育をさせて

大阪市

小三と年長児の母。上の子が一歳になる前に私立無認可保育園に預けた。妊娠中から公立保育所も見学に行ったが、

「お宅は近所に主人の二重親がいっぱいいるからまず無理ですね」

と、言われ断然。聞けば緊急度の高い人から入所できるようにしているとか。その後は電話帳や広告などを見てもつばら私立の無認可保育園を回った。

結局、通勤に便利な地下鉄の駅にあったビルの二階の園に決めた。街なかで園庭もない狭い部屋だった。清潔で保育士さんも若くて元気なところが気に入った。二人ともお世話になった。

ただ、大きくなるにつれ、ちまちまと小さく遊ばざるを得ない園に、上の子が欲求不満になるのが難点。ちょうどその頃、その園の園長先生が前任していた私立幼稚園との二重保育の話が持ち上がった。働く母にとっては送迎の時間がネックになるが、そこは今の無認可保育園がカバーしてくれ、従来の送迎の送迎時間のままでそこから幼稚園バスの集合場所まで連れて行って迎えに行ってくれるというもの。段々友達や外遊びを喜ぶような年齢になった子どもを思いっきり遊ばせてやれる、と思いついた。同じ無認可から通う友達も五人ほどいた。きつと同じ気持ちだったのではないかな。両方とも私立なので費用はかさねたけれど、だからといって今更親しんだ園を捨てる気にもなれず、そのまま卒園させた。

現在、下の子がその二重保育真っ最中。小さいうちはハードだったのか迎えに行く頃はくたくた

で寝てしまふ日も度々だった。が、今こうして振り返ると保育園のたくましさや幼稚園の多様性と両方体験させてもらったのでは、と思う。



ベテランの技も、若手のエネルギーも

横浜市

現在五歳の子は横浜市立保育園に通っています。横浜市はこの春から手始めに四園を民営化することにしており、これからは民営化の流れは変わらないうえ、その為、新規保育者の採用を抑えているようで、子どもの園では、見たところ二十代の先生はたったの一人。体を使って様々な体験を重ねる年頃の子どものため、かなりカワイソウな状況です。かねてよりこのことについてどうにかならないものかと思っていたのですが、昨年末に行われた「学芸会」でベテラン先生の素晴らしい発表を認識させられることになりました。どの年齢のクラスの発表も派手さはないものの大変落ち着いて安心して見ていられ、かつ、子ども達もとても楽しそうなのです。先生からの押し付けではなく、自分達の意思で発表に取り組んでいるんだ、という誇りに輝いている（大げさな）のです。そう思っただけのクラスを見てみると、さりげな



く子どもたちの自主性を引き出して誘導してくださっている様子。

この技は経験を積んでこそ身に付くものでしょう。若い保育者に一緒に働く中で伝えてもらわなければもったいないことです。後輩は体力勝負の部分を引き受けながら、先輩の技を引き継ぐ。子どもにとっても若手男女様々な先生の中で育つてこそ健全な社会性が身に付くのではないのでしょうか。

コラム・専門家に聞く
保育園の保育内容と幼稚園の教育内容の違い

由田 新

（宝仙学園短期大学保育学科 専攻幼児教育）

保育園と幼稚園は対象とする子どもの年齢の幅が違い、園で過ごす時間が違うという大きな違いがあります。ただ三歳から六歳の子どもを考えた場合、保育園であるが幼稚園であるが、基本的に保証されるべき内容が変わってはいないかと私は考えます。もっとも時間的な長さの違いから生活のリズムの作り方の違いはあるでしょう。そもそも施設のあり方が違うことで「幼児教育」の本質が変わってしまうというのは変です。同じ年齢の子どもにとっても必要なのは同じ施設も同じです。

しかし、実際には、保育園と幼稚園では、やっていることが違っていることが多いのではないのでしょうか。

世間一般のイメージとして、保育園は子どもの面倒を見ることのできない親に代わって子どもを預かってくれるところだから、子守りして遊んでいるだけで特になんかしてあげない。それに対して幼稚園は行かなくてもいいのにわざわざ行く「教育」の場なので、何か特別な「教育」をしてくれるところという見方があると思います。入学したての短大の学生たちに関しても概ねこのような反応が返ってきます。

かけ・しくみでしよう。

一方、幼稚園で「教育」という場合、何をイメージしているのでしょうか。目に見える形で何かができるようになったというようなもの、例えば、水泳、英語、音楽、身体表現、絵画、漢字、ドリルといった特別な課題、いわゆる「お勉強」を行っているというように感じることが多い。そして、このような「教育」の特色をもった幼稚園が親から支持され、たくさんのお金が集まってくるという現実があります。果たしてこの時期の子どもにとって必要な「教育」とはこういうものなのでしょうか。多くの保育園で行っていることも実は「教育」なのではないかと私は思っています。多くの幼稚園で行っていることが「教育」だと思われている。いったいどういうことなのでしょう。ここには、私たちが「教育」という言葉に対して持っている思いが関係していると思います。私たちが「教育」という言葉で何を思い浮かべるときに学校の勉強が思い浮かぶと思います。小中高と長きにわたってそういうスタイルの「教育」を受けてきていますから、それのも当然かもしれません。小学校以降の「教育」の基本的なスタイルは、大人がよかれと思つたことを組織的に簡単にこなすことと、子どもがよかれと思つたことを「授業」を通して子どもに与えて学ばせるというものです。この「教育」のイメージを頭において「幼児教育」を考えると、幼稚園の子どもはレベルに合うようにもつと簡単に、易しく楽しく遊び感覚でできるようにした内容を大人が用意して、それを子どもに与えて学ばせるということになるのです。

しかし、「教育」という考え方はこれだけいいのでしょうか。直接的に大人が働きかけて教えるというのと違う。うやうやりの「教育」もあるのではないのでしょうか。人が育つということを考えてみると、大人から直接教わって育つだけではなく、自分で周りから学んで育つということがあります。知識を学ぶならば前者がいいかもしれま

せん。しかし心・意欲・態度

に保つて人間として基本的に必要な大部分の事柄については自分が周りの世界と保つてその関係の中から経験して身につけていると思います。ここにも間接的ではあっても「教育」という働きがあると思います。幼児期にまず育てるべきことは、目先の知識・技能ではありません。今述べた後者に保つておく部分ではないでしょうか。知識・技能は様々な経験を通して結果として身につくものだと思います。従って、幼稚園・保育園は意図的な「教育」の場でありながら、より間接的な教育の方法が必要となってくるでしょう。すなわち、子どもにとって望ましい環境を用意し、そこで子どもたちが自主的に活動（遊び）を展開する中で様々なことを学ぶように配慮する。保育者は必要に応じて援助するということです。保育園が「教育」的ではないといったときにイメージされているものは意外にこうした方法かもしれません。「幼児教育」という言葉を用いると学校のようないくつかのイメージが生まれるので、それは違つたり方だと強調するために「保育」という言葉を用いる幼稚園関係者（世間でイメージされている「教育」的なことをしていない園も多いと聞きます。本来ここで「保育」と呼んだものも「教育」に近いのです。世間一般にある「教育」に対する狭い捉え方と区別せざるを得ないのだと思います。

私は、「教育」と「保育」も、本来は全く違つたものをさす言葉ではないと思います。ただ、幼児期の「教育」はその内容も方法も小学校の「教育」とは異なります。保育園・幼稚園の「教育（保育）内容」とは異なります。に、「教育」という言葉に染みついてしまっているイメージを一度取り払つてみる必要があるのではないかと思います。

横浜市の現状と問題点

横浜市

横浜市では、今後公立の保育園を作る計画はないそうで、今新しくできていく園はすべて私立園で、私の子どもも私立の園に通っています。市は「認可」していますので、保育料などは、公立園と変わらず、世帯ごとの収入に応じた金額になっていますが、保育の内容は大きく異なります。

また横浜市では、現在公立園として運営されている園も順次民間に委託していくそうで、たとえば、私の近所の「丸山台保育園」は、この四月からいきなり「私立」として運営されていくことになりそうです。保護者に告知されたのは確か今年度に入ってからだったと思います。

運営団体を決定するにあたっては、市が責任を持つていくわけですが、正直なところどこまできちんと見極めていくのか不安があります。

私の子どもが通っている園は母体が幼稚園です。入園説明会でも「幼稚園のよさを取り入れていく」という話を聞きました。幼稚園のよさというのは、具体的には教育的なことにも力を入れるということでした。

現在、体操教室と絵画教室は外部から先生を招いて、週に一回レッスンがあります。当初、そんな必要はないのでは？と思ったりもしましたが、これは私自身、案外良いものだと思っていました。子どもたちも気分が変わりますし、絵画や体操は先生にも得手不得手がある分野。専門の先生がのびのびと自信を持って教えてくれる姿を見ているととてもよかったです。と思っています。

ただ、私個人としては「幼稚園」は、家庭でできない体験をする場というイメージがあります。

でも「保育園」は、家庭のように落ち着いて過ごせる場であることを望みます。子ども自身が家庭にない刺激を受けるのはいいのですが、それで疲れてしまつては元も子もありません。いる時間が長いですから、ゆったりとできる時間は絶対に必要です。そのあたり、保育園にはわかつてもらいたいなあと思います。

私立園になっていくと、それぞれの園が個性を持つようになりそうです。それは基本的には悪いことではないと思います。たとえば園舎にしても、公立園は画一的な建築でしたが、私立園はそれぞれなかなかかわいい園舎を持っています。保育内容にしてもそうです。

ただ思うのは、保育園は、幼稚園と違い「選択」の幅が狭いと思うんです。働いている保護者にとつては自宅から最も近い園に入れるしかない場合が多い。となると、その「個性」も選べない上での個性ならば、ちよつと問題があるのかもしれないと思います。

それから、保育内容の質のばらつきだけでなく、見逃せないのが経済的な負担です。保育料は、横浜市が認可している保育園ならば、公立、私立を問わず、保育料は収入に応じたもので、どこに通おうが変わりませんが、それ以外の負担がかなり違います。私の子供が通っている保育園では、保育料以外の徴収がものすごくあります。クレヨン、自由画帳、粘土などすべて個人負担（公立園では園が用意していました）、体操服も必要ですし、園服もあります。遠足もバスをチャーターしていく豪華なもので、八千円くらいとられます。そして年長時にはキャンプまで（千五百円）。確かに公立園ではできない体験ですが、そこまで負担が異なるものかどうかという気がします。

こうした経済的な負担も含め、市は願書の提出前に、きちんと保護者に説明しているのかと思います。

保育園は、保育の質にたとえ少し納得できない面があつてもとにかく預かってもらえなくちゃ困る！という切羽詰った状況が保護者の側にありますよね。預けながら、園の体制についてはママにチェックしなくちゃ、と思います。

幼児期に大切なことは何か
東村山市



十数年前、小学校で教員をしていた頃、ちよつと「生活科」が始まり、新しい教科に戸惑い、どう授業をしたらいいか研究したことを思い出します。ザリガニ捕り、にさつまいも掘り、秋を見つけてようetc. 子ども達の体験の少なさを危惧して作られた教科でしたが、細切れの授業時間の中でできることは限られたもので、こういうことは幼児期に存分やって、学校へ上がってくるべきではないかと思つたものです。ところがどうでしょう、最近の幼稚園では、ひらがなの書き方を教えるところも多いようです。幼稚園時代に字を書く練習をし、学校へ行ってから、授業時間にあえて「遊び」に近い体験を教科として行う。幼稚園の小学校化なのか、小学校の幼稚園化なのか、なんだか妙な話ではないでしょうか？ひらがなのみならず、スイミングに、英語、絵画教室などのおけいこことが盛りだくさんの生活の中で、子ども達が本

の生きる力を培う自由な「遊び」の時間は保障されているのかという疑問がわきます。近所に遊び仲間がいない現代、せつかく集まった時間に「そこ」と子ども友達と関わり、遊ぶ絶対のチャンスです。一斉指導など、区切られた時間に次々とやることを与えられる生活に慣れきつた幼児は、いざ、自由な場所と時間を与えられても、どうしていいかわからなくなります。実際、「先生、次何して遊ぶの？」と次の指示を待つ幼稚園児を目にして驚いた経験があります。

時間の問題もさることながら、「遊び」の質はどうでしょう？保育園では「遊び」の時間は十分あるように思いますが、狭い園庭の中で子ども達はどう遊んでいるのでしょうか？ただ安全にさええ時間が過ぎればいいのでしょうか？最近、親の要望として、保育園でもっと教育的なことをして欲しいという声があるそうです。本当の意味での「教育的」というのは、おけいこを導入することではなく、「遊び」の環境を確保し、保育士が「遊び」の質を追求することだと思っています。意地悪く園サイドからものを言えば、外部の専門の先生に指導を委ねることほど、楽なことはいません。それで親からの評判を得られるとすれば、一石二鳥です。結局、保育の質を左右しているのは、親である私達のなのだという認識が必要なのです。

小学校の「生活科」は今でも低学年の教科としてありますし、最近では、同じようなねらいで、高学年でも「総合学習」なるものが登場しました。いずれも子ども達の主体的な「遊び」が求められています。幼児期に主体的な「遊び」をしてこなかったとしたら、その後の主体的な「遊び」は大変難しいものになることは容易に想像できます。

私は今、自然の中で思いっきり遊ぶことを大切にしている認定保育所で働いています。親の中には、こんなに遊んでばかりで、他の幼稚園から来る子は字も書けるし、色々やってくるのに学校へ行つて困らないか、不登校にならないか心配される方がいます。そういう時、私はこう言います。

「学校に上がる前にできてほしいことは、人の話がちゃんと聞けること、自分の言葉であつたことや思つたことが伝えられることです。幼児期の言葉はとても大切だと思いますが、それは、書く言葉よりも話したり聞いたりする言葉です。だから、今子ども達に必要なのは、良い絵本をたくさん読んであげることや、子どもの話をじっくり聞いてあげることではないでしょうか？」と。

これは言葉の例ですが、言葉に限らず、数的な認識、自然への興味、社会との関わりなど全てが幼児期に培われるものの捉え方、感じ方を、その成長のベースとします。その耕し遊びや生活の中でしないまま、いくら、知識や技術の習得を急いでも何もうらないと思うのです。



今、幼保一元化という時代の流れがありますが、大人が第一に考えなければいけないのは、幼児期に本当に大切なことは何なのかということであり、それは幼稚園の子どもにとっても保育園の子どもにとつても同じはずで、そのことを十分考えた上で、保育時間や制度上の問題が解決できれば、幼保一元化は歓迎すべきものだと思います。ただ、今議論されていることを垣間見ると、国レベルでも自治体レベルでも優先されているのは「大人の都合」ではないかという気がしてなりません。

【編集後記】

特集にあたって「保育園のことをみんなに知ってもらいたい」という気持ちもありました。けれど働くから預けるのではなくて0歳児でも安心して預けられるから働くんだ、保育園って何もやってくれないのではなくて子どもがやることを保育園が見守ってくれているのだ、ということ。

ばらばらに遊んでいる子どもたちを見るのは子どもを集めてひとつのことを教えるより人手がかかります。子どもの遊びやケンカについて助け舟を出すか、の判断も長い経験や、保育士同士、保育士と保護者との関わりの中で育てられるのでは？そんな環境さえしつかりしていれば英語や体操の先生が来てくれる事もきつと子供たちのプラスになるでしょう。そして幼稚園が悪いと思わないのです。今の民営化、非正規職員の増加、そして幼保一元化の流れのなかで保育士同士が対等な関係で「保育」という職に向き合い、生活環境の違う子供の生活に対応できるように。

母親の生き方にも、従来の「働く人」「家にいる人」だけでなく「働く」とするひと「何かをやりたひ」とができてくる今の保育園ではとても対応できなくなっています。女性の社会参加（+男性の家庭回帰）のためにも、何より子どもたちの育ちくまに由田氏の「教育」うのためにも就学前の環境に行政はぜひ一肌脱いでいただきたい。

今回の特集、アンケートをいただいた方やWE DOの面々に直接会ったり原稿をお願いした結果、幼稚園のみならず小学校や専門家の立場からのお話も聞けました。四月は、何かと生活に変化のある季節ですが、いろんな視点を持つてみると少し肩の力が抜けるような気がします。たくさんのご意見をありがとうございます。（三光）

「けばいいわ」とあまり関心がなかったようだが、私も自分のことではないので、適用拡大については会社でさほど話をしなかった。

第三号被保険者のことも、時期尚早ということでも何とせず見送りである。こちらにもほっとしている人が大勢居る。何せ短時間パート主婦も専業主婦なのであるから。結局変わらないうちに、現在できている社会という基盤は、あんなに長い間議論された事案はどうなる？ 唯一よかったと思えるのは、専業主婦が離婚しても年金給付される「年金分割」が施行されることである。離婚する夫が一筋縄では払おうとしないと思うけど、法で決まったことだから払わなければならない。離婚後の妻の生活も少し保障され、心強い。

二〇一七年以降、厚生年金の給付は50%給付（※）を明記し、保険料率は年収の18・30%までとし、国民年金保険料額は月額一万六千九百円に固定する。また二〇〇八年には、将来の年金給付に関する情報をポイント制にして表示するらしい。収入の有る高齢者の年金の減額は七十歳まで引き下げられた。老齢になつたらあまり働かない方がよいかもしれない。働くしか能の無いお方にはお気の毒な（法案が国会会中に成立しても）施行後五年先にはまた年金改革があると思うが、あれこれ検討していても最後の最後に「本当の案」が出されるのだということを今回学んだ。（12・1月号特集を参照して下さい）

※厚生年金の給付水準は、現役世代の平均手取り年収の50%を上回るよう確保すると明記。

●私にとってのあんふぁんて

豊島区

私が「あんふぁんて」に入会したのは、二歳と三歳の年子の育児で身も心も疲弊していた時、そして、夫への不満をいつも心中に抱えていた時でした。

とにかく仕事をもちたかったのです。仕事さえ持てれば、社会との接点・客観的な視点・自分だけの時間ができ、収入があれば、夫も私のことを一目置くだろうと考えていました。そうした思いを胸に抱きながら、「あんふぁんて」のイベントや会報編集に参加し、事務局スタッフや会員の方々と語り合い、助けて、支えてもらって、ようやく今、私は念願の「収入のある仕事」を手に入れました。ところが、いざ働いてみると、「あんふぁんて」がまたキラキラと輝いて感じられるのです。例えば、職場でささやかなる話で、どちらかといえば、「マイナス思考」なんです。揚げ足を取ったり、悪口言ったり。私は、「これが働きの職場なの？」と驚きました。



K.T.

あんふぁんてから

あんふぁんてへ



同性としての嫉妬は当たり前：

母子関係 上と下

町田市

入会当時二才だった娘も十三才になり、難しい年頃というより、自分の辛かった年頃を迎えようとしています。

ズバリ成績が良くありません。「勉強しろ」と一応は口にしながら、「出来なくても済まされる子は幸福だ」という思いがもたげます。当時の私は、「父親のようなワンマンな男に引かからないように、手に職をつけよう」と、死にもものぐるいでガリ勉しなければならなかったものでね。それで、灰色の青春時代だったなあ、と思うと、胸が痛くなります。だから、今やりたいことをやっていられる娘は幸福だよなあ、と思いますね。

本題の自分と母親との関係の思うと、もの

妻く母に妬まれていたんだなあ、と思いますね。理解されるかどうか解らないけれど、単純に若さが妬ましい、という母親というのは多いと思うんですよ。ましてや戦争直後は日本人全体が貧乏だったから、高度成長期の子どもは幸福だ、と妬んでた母親は多いと思います。昭和五十年代に高校・大学と娘（私）の学費を出しながら、内心は嫉妬していましたね。

その結果、薬剤師資格は手に入りました。人間関係も徐々に上手くなり、陰気な面影もなくなりました。でも、娘がいる分、女の可愛げが足りない自分は意識しますね。

娘は父親に甘えるのが上手いんですよ。まだ、好きな子はいないけど、それが始まった別々の意味での私の葛藤が始まるのかな、という爆弾も抱えています。

幸い、社会的な問題を考えるグループにはいろいろ属している中で、男性の多い環境と、（子どもから目をそらすのに都合のいい）自分だけのための勉強、という一石二鳥のものがあるので、思われている方だとは思っています。

母子関係は、自分の世界をもって、切り離すために努力する、に越したことがないのかもしれないですね。

（元 母子三代を考える会 代表）

二〇〇四年の年金改正に思う

杉並区

パート労働者の厚生年金加入は見送られる形で、二〇〇四年二月十日、公的年金制度の

改革法案が閣議決定された。パートの厚生年金適用拡大の付則として「法律の施行後五年をめどとして、検討結果に基づき必要な措置が講ぜられる」と盛り込まれたが、それはこの先検討課題としていくことか。

週に二十四時間／三十時間働いている人たちは、厚生年金に加入できることを期待していたのではないかとと思うのだが、年金適用が拡大になると多数のパートの首切りもやむをえないと、外食産業の企業が反対して、長期に討議していた案も寸前で破算になった。景気低迷が長く続いている現在の経済状況では、会社の年金負担も確かに経営を圧迫するかもしれない。しかし、短時間パート労働者ばかり雇用して経営を大きくしている企業を見ると、従業員達が保険も年金も無く保障も無い不安定な生活基盤におかれている状況は、何とも腹立たしいと思うのだが。パート社員で成り立つ企業に再考を望む。

もちろん雇用されているパート労働者の中にも、年金適用の拡大が見送りになっているとして喜んでいられる人も大勢いると思う。複雑なところだ。

私の勤めている会社は、パートの人が週三日（週二十一時間勤務）交替で勤務し、責任を持って一つのセクションを担っている。経営者は、たった一時間のためにそのローテーションが崩れてしまうのでやきもきしていた。当のパートさん達は子どもが成人していたり、夫が大企業に勤務していて稼いでいるし、自分のお小遣い稼ぎに働いている恵まれた人たちなので、どうなろうとどっちでもよいらしく、「言われた時間だけ働

あんふぁんて ひとことコーナー

「あんふぁんて」で私は、話をきちんと聞いてもらっていたし、しどろもどろの話の中でも、良い部分をすくいあげて膨らませて新しいアイデアにして返してもらっていたのでした。私もそうした部分を見習いながら話し合いに参加し、皆で練り上げながら、会報やイベントを作り上げる経験をさせてもらってきたんです。いわば、「プラス思考」の話し合いです。でも、もしかしてこれって、世の中では「あんふぁんて」の方が珍しいのでは？

貴重な体験をさせてもらい、また貴重な場を得ていることを心からありがたく思い、同時にこの場を持ち続けるために、自分は何をしたらいのか？と、考える今日この頃です。

図書コーナー

『アホの壁』USA

マイケル・ムーア著(松田和也訳)

柏書房発行 本体1600円+税

昨年のアカデミー賞授賞式での政府批判の強烈なスピーチを偶然にもTVで観てしまった私は(もちろんドキュメント賞の『ボウリング・フォー・コロンバイン』も観たが)、新聞広告でこの出版を知り、うれしくなって購入。(本来は図書館で借りるか、古本屋で買うのだが。)まだ読み終わっていないが、この本が1996年の彼の処女作で、あの授賞映画よりも、2002年12月号の会報で津賀さんが紹介してくれている400万部も売れた『アホでマヌケなアメリカ白人』(柏書房)の本や、もった世界中で評判の『おい、ブッシュ、世界を返せ!』(アーティストハウス)の本よりもずっと以前に書かれていることに感動し、良心派アメリカ人にやっとなかえた気がした。(古知)

『産んではいけない!』

少子化なんてくそくらえ!

楠木ほとす著 本体1200円+税

太田出版 2001年12月発行

これは会員の関心からタイトルに魅かれて借りた(長く借りつ放しでゴメンね)本だが、子育てがツライ!ダメされた!(気がする)思いで一気に書かれた元氣な本音とイカリの本で、社会へもしっかり目を向けているところがエライ!と思った。(古知)

● なつかしい人からのお便り

調布市

私は……と申します。昔はいう名で「あんふぁんて葛飾」をやっていた。幾代さんとか古知さんとか、古い会員の人は私のことを知っているといます。上の二人の男の子が中学時代に不良になって番長抗争事件などを起こして大騒ぎになったとき、あんふぁんての先輩方にいろいろアドバイスをお願いした。不良はババアに教わった。(子ども達は「不良はババアに教わった」などと言っておりすが)

このたび、走り屋小僧だった方の長男の嫁さんが懐妊して、私もとうとう孫をゲットできるめどが立ちました。お産サイドブックを購入しようと思つて、あんふぁんてのホームページを開きました。本当にお久しぶり。あんふぁんてが元気に続いているのを知つてうれしいです。現在の私はあんふぁんてから始まった、と言つても過言ではないでしょう。自分らしくあつていいのだという自信を与えてくれ、生涯の友人も得ることができました。今は鍼灸院をやっています。ぜひ、相互リンクをお願いしたいです。よろしくお願いします。念願だったおばあちゃんに無事なれるのかな、と、ドキドキ。なかなか子どもができて、その上切迫流産で大変だったんです。息子の嫁だし、どこまで手助けしてよいのかも分からないし。今度は、おばあちゃんのお集でも出してみたいかがですか? お産サイドブックを通して、嫁さんともい

ろい世界を共有できたらいいなと思つています。これからもあんふぁんてが繁栄することを願っています。

おかしいぞ?

危ないぞ! 日本

『あんふぁんて平和を創る会の会話から』

T・先日、イラク派兵反対をしていた市民グループが逮捕されたというニュースをテレビで見ると衝撃を受けました。まさしく「弾圧」です。逮捕の理由は、一月に自衛隊立川東駐屯地の東側にある官舎に「イラク派兵反対を呼びかけるビラ」を配ったこと。「住居侵入」という、かなり無理のある根拠のようです。

その官舎は国家公務員住宅の区画にあり、ビザ屋さんも、お寿司屋さんも、住宅メーカもチラシを入れてる住宅なのに!日本がこういう国だということに、どれだけの人が気づいているのか?

F・世間が「オウム判決」に関心を持っている時に、というか、マスメディアがそれを

デカデカと書き立てる時に、同時にこういうこと(今回の逮捕)が行われる……というのが、やり方の一つなのだと思います。これまでの重要法案が通るのも、「お盆」とか「年末」とか。けっこうそういう時期って、重なってたから。



あんふぁんて発足30年

記念イベント開催の経過報告と

「あんふぁんて」のこれから!

杉並区

イベントスタッフが集まり、あんふぁんての30周年記念イベントの開催について幾度と話し合ってきた。相談会も何回か今では分らなくなってしまうくらいに。

そして、その話し合いは「あんふぁんて」の会そのものの存在の意義までも及んだ。そう、今や会の存続について、会員皆が話し合わなければならぬ事態に陥っている。

イベント開催の「相談会」のこれまでの話し合いの経過を報告しよう。

※昨年六月にイベント相談会の第一回目を高田馬場のKUPU-KUPUにて行う。その時は、30年も経てきたことに皆感動してお祭りムードだった。「総括したい」「自分らしく表現する」などいろいろな案が出された。*

※第二回目に、イベントは何のために行うのかについて話し合われ、外に向けてあんふぁんての30年の意義を伝え、あんふぁんてをアピールすることになる。

※第三回目に大まかな事が決まった。

(1)ビデオと冊子制作 講演会を開催

あんふぁんての発足と趣旨など30年の歴史と子育ての変遷をビデオ制作する。

(2)年表の展示(会報のあんふぁんての30年と社会での子育ての変遷を比較する)

(3)30周年記念イベントを開催

エポック10祭りに参加し、あんふぁんて30年の活動を展示してアピールする。ワークショップを開催するなど具体的にこれからの詰めていく。

(4)2005年3月頃(未定)に本番イベント

あんふぁんてについて、講師を招き皆でトークをしよう、コンサートをしようとかの案が出された。

以上が大まかな内容として決められたが、現在、暗礁に乗り上げた状態になっている。

暗礁に乗り上げたのは?

暗礁に乗り上げてしまった理由は三つある。①ビデオ制作については、編集の費用捻出のため支援団体の助成金申請を試みようとしたが、会の個人的な事では無理なようで断念。そのためこの案は、保留になって中止の方向である。別に話し合ったわけではないが。②昨年九月から会報を分担して年表制作をしてきた。しかし、余りにも短くまとめたため、年表となつたので展示する年表ではなく、冊子の年表に作り変えようか、あるいは、本としてまとめよう、ということになった。③あんふぁんての現状が続いて行くことに意味があるのか?そこを会員皆で話し合ってから、30周年記念のイベントの開催を考えるべきではないか。との意見が出された。

「あんふぁんて」のこれから!

あんふぁんての会の現状での問題は、会員減に伴う会費不足による運営費の赤字で、人

件費の一部を削ったり、会報発行を完全な隔月にして費用を抑えたり、苦しい状態。

昨年の交流会ではあんふぁんてのターゲットを、小さい子を持つ若い母親から、学齢期の大きい子を持つ、あるいは、老親を抱える年齢の母親たちに移そうと決めた。

しかし、会報を隔月にしても赤字は続いており、現在もこれまでの蓄えを取り崩して会費は減っている。だがさらに問題なのは、会のイベントや会報の企画をしたりするスタッフが居ない事。それと現在の事務局は若いママたちとのギャップを感じていいるので、会費を続けるにはその点も考慮が必要と思う。会員一人一人が動かなくては何か変わる。

方針を変えることは時代の流れもあり仕方ないが、「あんふぁんて」の趣旨を忘れてはいけない。互いに助け合い子どもを預けたあふあんの足跡をあんふぁんての意義はなんだったのか。路線を変えてもそれで会員が増えいくのだろうか。イベントを開く前に、あんふぁんての存在の意義を皆でよく考えてみてはどうか。との提案があった。

「趣旨を忘れてはいけない」にイベントスタッフはなるほどと思った。しかしスタッフだけではなく会員皆で話し合い、真正面から「会の存続」を問わなければならないと思う。その事を八月の交流会の議題の一つに提案したい。私にとってあんふぁんてという存在は、自分らしく生きる勇気を与えてもらえるところ。無くなってしまうのはすごい不安。あなたにとってのあんふぁんては? これからのあんふぁんては? など皆さんの意見を事務局にぜひ寄せてください。

情報コーナー

★チエルノブイリ18周年教授コンサート

ナターシャ・グジー(歌手) & カリーチャ・グジー(バンドウーラ演奏) 姉妹中心のコンサートです。

※大阪公演 4月17日(土) 1時半開演

アビオ大阪小ホール(JR森ノ宮駅)

一般前売り2000円 当日2500円

主催・問合せ・コンサート実行委員会

TEL FAX 072(843) 1904

※東京公演 4月25日(日) 3時半開演

セシオン杉並(地下鉄東高円寺駅)

一般前売り2500円 当日3000円

主催・問合せ・公演実行委員会

奈良・神奈川・埼玉・三重・岐阜でも公演。各会場とも、中高生・障害者割引あり。

★平日あんふぁんて：児童館で遊ぼう

5月9日(日) 11時〜2時

東京都児童館・受付前集合

(JR渋谷駅下車徒歩7分)

※当日は、会館と都の地域活動連絡協議会が主催する第3回「ふれあい子育て交流会」が開かれており、子育て支援団体の展示やイベントが行われています。

※あんふぁんても展示に参加の予定なので、会館で子どもを遊ばせつつ、顔を出してください。

※参加の連絡は7日(金)までに事務局へ。

★子育て広場「トライアル」

日時・4月19日(月) 10時〜2時

5月31日(月) 10時〜2時

※両日とも、子連れの人にはなるべく15分前までに集合してください。終了後3時まではワークショップと保育の引き継ぎを行います。

場所・エポック10保育室・会議室(池袋駅隣)

Aコース・子どもと一緒に遊ぶ

「いろいろな親子と接してみたい、子どもとの関わり方を再発見します」

Bコース・子どもと離れてしゃべり(場)

「4月のテーマ「入園・入学の時期に気になること、心配なこと」

5月のテーマ「自分の子育てに不安になる時、どうしているか」

※ただし、話し合いのテーマは当日の参加者の希望により変更の可能性あり。

Cコース・子どもを預けてタウンワーク

「子どもと離れてリフレッシュタイム。子連れに優しい街かどうかチェックします」

参加費・一人500円(資料代・保険料込み)

保育・子ども一人200円(定員・7名)

持ち物・保育カード、保険証、子どもの昼食と着替え(要記名)など。

*初参加の人はAコースから。Bコースは大人のみの参加も歓迎です。

*申込は両日とも10日前までに住所・氏名・電話番号・子どもの氏名・性別・生年月日を明記し事務局へ。

※当日急に不参加になった場合、エポック10を通じての電話の取次ぎや伝言はできません。

事務局の留守番電話に用件を吹き込んでください。

会報原稿大募集!!

★あんふぁんての会報は、会員一人一人の声によって作られたもの。だから、あなたの声をぜひ寄せてください。

●彼氏特集(仮題) (8・9月号予定)

「彼」と聞いたら誰の顔が浮かびますか? 夫・パートナー? それとも男友達?・恋人? 「毎日の生活に追われて最近では夫とすれ違いばかり。たまにはデートしたい」「結婚十年目でも子ども達に冷やかされるくらい超仲良し夫婦」「職場の同僚が良き友人」「ただ今恋人募集中」「初恋の彼」などなど、あなたと彼の話を聞かせて下さい。匿名投稿も可。原稿締切は5月10日(月)。郵送・FAX・メールで事務局まで送ってください。

★6・7月合併号は「あんふぁんて30年の歩み」と「性教育」を特集予定。10月以降の特集は未定なので、誰か企画・担当して下さい。

★性教育についての座談会

4月21日(水)11時～3時 事務局にて

会報(2・3月合併号)に同封したアンケートの回答や、各地での授業での取り組み例、行政の対応などを参考に、じっくり話し合いながら特集作り(6・7月合併号掲載予定)をしていきます。興味のある人は、ぜひ参加してください。

子連れ可、弁当持参。参加できる人は、前日までに事務局に電話かファックスで申し込んでください。

事務局から

●都合により週5日事務局に来るのが難しく、電話受付時間がないことがあります。その場合、連絡はファックスか留守電をお願いします。(川崎) ●3月末現在の会員数は252名。

＜スケジュールメモ＞

4月18日(日) 30周年相談会

4月21日(水) 「性教育」座談会

5月17日(月) ミーティング

5月23日(日) 30周年相談会

6月7日(月) 六・七月合併号発送

※発送作業は子連れ可です。お弁当持参で来ませんか? 連絡ください。

●あんふぁんては、会費のみで運営している会。会費の支払いのまだの人は、至急振込をお願いします。会費が切れても本人からの連絡がないと、退会や休会の措置がとれません。退会・休会や転居等の際は、必ず事務局まで連絡ください。

あんふぁんてホームページアドレス <http://>

事務局までの地図

☆当会について詳細を知りたい場合、封書に〒・住所・氏名・☎を明記し、切手下さい。入会希望の場合はなるべく会費六ヶ月分(三千円)以上まとめて、郵便局の振替口座に払い込んで下さい。

第295号 (隔月5日発行)
2004年4月5日発行
(1975年7月26日初刊発行)

あんふぁんて 4・5月合併号

発行人 /
発行所 / あんふぁんて出版部

電話
(☎平日12時～2時それ以外FAX)
定価 / 500円
振替口座 /
加入者名 / あんふぁんての会

©本誌掲載記事の無断転載を禁じます。